

3 指導の実際

(1) 地理的分野 日本の諸地域「中部地方」(全8時間)

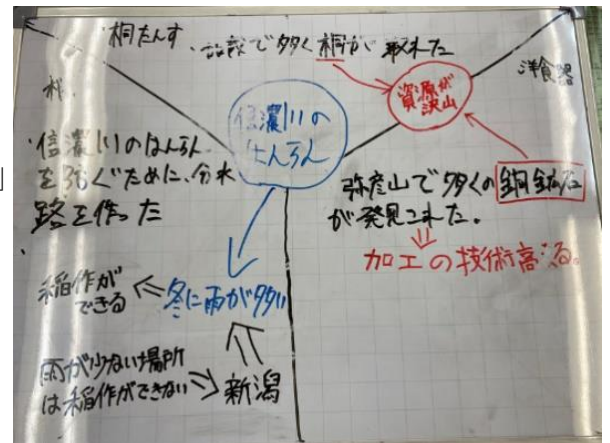
時	学習活動	学習内容
1時	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">単元を貫く課題：中部地方の産業は、他の地域と比べてどのような特徴があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部地方の自然環境の特色を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中部地方が自然環境から3つの地域に分かれ、それぞれ異なる産業が発達している。
2・3時	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県(北陸地方)の産業の特徴を考える。 稲作、地場産業の発達した理由を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎なぜ、新潟県は稲作や地場産業が盛んなのか。 稲作、加茂の桐たんす、燕の洋食器の中から自分で選択し、理由を2つ以上考える。【個別最適な学び】
4時	<ul style="list-style-type: none"> 調べてきた資料を根拠に、新潟県の稲作、地場産業が発達した理由を伝え合う。【協働的な学び】 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟の地場産業は、信濃川の氾濫が多く、年間を通じて行われていた。 稲作は、豊富な雪解け水や夏の日照時間の長さを生かしている。昔から稲作が盛んだったわけではなく、多く生産されるようになったのは戦後になって土地改良が進んだことの影響がある。
5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 中京工業地帯、東海工業地域、東海地方の農業、水産業の特徴を理解する。 中央高地の産業の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎東海地方の工業は、どのような産業が盛んなのか。 ◎東海地方の農業や水産業には、どのような特徴があるのか。 ◎中央高地の産業は、自然環境とどのような関係があるのか。
8時	<ul style="list-style-type: none"> 単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、中部地方を産業を中心にまとめる。

中部地方の単元において、身近な県央地区の産業(稲作、桐たんす、洋食器)を取り上げた。「なぜ新潟県では稲作や地場産業が盛んなのか」という問いをたて、生徒が自分で調べてみたいものを1つ選んでエキスパート活動を行い、ジグソー学習でYチャート(資料2)にまとめ、県央地区の産業の特徴について考察した。産業の発展の背景には様々な理由があることを理解し、授業の終末において「地理的な見方・考え方」を示した。中部地方の他の地域や、他の地方もこれに関連付けて学習内容を振り返るように促し、毎回の授業の最後に単元シートに記入させた。

第4時の協働的な学習活動において、思考ツールを活用して前時に調べた3つの産業の発展した背景を議論させた。Yチャートを活用して3つの産業の特徴を可視化したことにより、異なる背景をもつ社会的事象を資料2のように「信濃川」を共通点として自分の学びを、他の生徒の学びを取り入れ、学びが深まった。

単元シートの活用は、資料1のように地方ごとに学習内容をまとめ、可視化できた生徒が多くいた。記載内容や振り返りの内容を見ると、多くの生徒が第4時での学びを東海地方や中央高地の学習にも生かされており、中部地方の産業の特徴について、多面的に捉えることができていた。

実践に関する評価結果は以下のとおりである。



資料2 思考ツール (Yチャート)

	評価目標	評価規準	結果 (35人中)
①	単元を貫く学習課題の追究における表現活動でB評価以上の生徒が90%以上。	新潟県で稲作と地場産業が発達している理由について、位置や自然環境、人間の営み、他地域との結びつきなどの視点に着目し、考察している。	B評価以上：35人 (2名欠席) (100%)
②	単元のまとめ・振り返りにおいて、中部地方の産業の特徴について複数の資料(自然環境、人間の営み、他地域との結びつきなど)を関連付けて振り返りを書くことができた生徒が75%以上。	中部地方の産業について、位置や自然環境、人間の営み、他地域との結びつきなど様々な事象やそこに生ずる課題を関連付けて多面的・多角的に考察、表現している。	A評価：19人 (52%) B評価：11人 (33%)

(2) 歴史的分野 近代の日本と世界「経済の成長と幕政の改革」(全 10 時間)

時	学習活動	学習内容
1 ～ 5 時	<p style="text-align: center;">単元を貫く課題:なぜ江戸幕府は政治改革を繰り返し行ったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の産業や流通、都市が発達したことを理解する。 元禄時代、享保の改革、田沼時代、寛政の改革について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎江戸時代には、産業や流通はどのように発達したのか。 ◎元禄時代はどのような世の中だったのか。 ◎なぜ享保の改革は行われ、人々の暮らしはどのように変化したのか。 ◎なぜ政治改革は繰り返し行われたのか。
6 時	<ul style="list-style-type: none"> 元禄時代～寛政の改革までの政策や社会の変化についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎元禄時代から寛政の改革までの政策の変化についてまとめよう。 ・大名、民衆、経済、外交ごとに各人物の時代や社会の変化についてまとめる。【個別最適な学び】
7 時	<ul style="list-style-type: none"> まとめた資料をもとに、幕府の政治が行き詰った要因を多面的・多角的に考える。【協働的な学び】 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業が発達し、米中心の経済から貨幣経済に変化した。 ・百姓一揆や打ちこわしが多くなり、民衆が社会を動かすようになった。 ・大きな戦乱が起こらなくなり、産業や文化などが発展した。徳川吉宗の享保の改革は良かったが、飢饉などの自然災害に幕府はその後にも対応できなかった。
8 ・ 9 時	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の諸問題と天保の改革、化政文化について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎国内外の危機に対して、幕府はどのように対応したのだろうか。 ◎社会の変化がある中で、どのような文化が広まったのか。
10 時	<ul style="list-style-type: none"> 単元の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、単元の課題について自分の考えを書く。

前単元の「江戸幕府の成立と鎖国」の単元において、単元を貫く課題を「なぜ江戸幕府は約 260 年も続いたのか」という問いをたて、学習を進めた。単元の終末で、江戸幕府の政策を大名、民衆、経済、外交にキーワード化して分類し、幕府が長く続いた理由について考えさせた。この単元では、前単元のつながりから「なぜ江戸幕府は政治改革を繰り返し行ったのか」という問いを立て、江戸幕府の政策がどのように変化しているのか、社会はどのように変化しているのかを単元を通して考えさせた。

6 時では、生徒が選んだキーワードに沿ってグループ分け、元禄時代から寛政の改革までの政策の内容を資料に基づいて調べさせた。その際、**資料 3**の思考ツールを活用して年代や政策の内容を整理させ、比較したり推移を捉えたりするように促した。政策や社会の変化を可視化させたことにより、歴史的な見方・考え方である、時期や年代、推移、比較を個人内で捉えていた。

7 時では、グループごとに政策がどのように変化していったのかを考え、全体で共有をした。学習課題について、どのグループも「経済」の視点に関連付けて考えた生徒が多くいた。また、身分の立場の変化を捉え、身分制が行き詰ったと考えた生徒もいた。

実践に対する評価は以下のとおりである。

	評価目標	評価規準	結果 (35人中)
①	単元を貫く学習課題の追究における表現活動で B 評価以上の生徒が 90% 以上。	幕政改革を繰り返し行った理由を、政治・経済・外交などから多面的・多角的に分析している。	B 評価以上: 22人 (1 名欠席) (63%)
②	単元のまとめ・振り返りにおいて、江戸幕府が政治改革を繰り返し行った理由について、社会の変化や改革の内容の比較などを取り入れた振り返りを書くことができた生徒が 75% 以上。	幕政改革が繰り返し行われた理由を、政治・経済・外交の視点から多面的・多角的に考察し、社会科の用語を活用しながら表現している。	A 評価: 19人 (55%) B 評価: 12人 (33%)

歴史 ワークシート 元禄時代～寛政の改革

※ 改革を行った人物や政策などを整理し、**政治・経済・外交**を中心に政策の変化についてまとめよう。

名前	徳川綱吉 / 新井白石	徳川吉宗	田沼意次	松平定徳
幕政改革	(前掲) 目の悪い貨幣を發行→物価の上昇 (白石) 貨幣の価値をもとに戻した	新田開発を奨励→物価の安定 貨幣で年貢 OK	積極的な商業政策をした→株仲間を増やして税を徴収した	武士の借金帳消し
社会の状況・出来事など	物価が上昇→社会が混乱した	貨幣で年貢を収めることが許されたため、貧富の差が広がった	いろいろ横行 浅間山の噴火→天明の飢饉	町人や百姓が反発

なぜ、政策が変化していったのだろうか？社会の変化に着目して考えよう。

それぞれの政治のやり方によってお金の使い方が違う。お金関係の政策で失敗して社会が変化していった。

→この時代は経済を中心的に改革を進めていたと思う

資料 3 思考ツール (ワークシート)

4 成果と課題

(1) 成果

① 単元シートを活用した「深い学び」

単元を通して何を学ぶのか、どんなことに着目して学習を進めていくかなど、生徒が見通しをもって学習を進めることができ、単元での学びが一元的にまとめられた。それを俯瞰することによって、共通点や相違点を見つけたり、学習内容をつなげたりできる。生徒が単元の最初にたてた予想や学習内容を蓄積、可視化したことによって、生徒Aの記述のよう

<生徒Aの単元シートの予想と振り返りの記述>

学習前	雪が多いので、その雪解け水を利用して稲作をしている(盛ん)。それ以外にも理由があると思う。桐たんすも洋食器も有名だと思う。
学習後	北陸では、夏に降水量が少なく、冬に降水量が多いという気候を利用している。稲作では、冬に多く降った雪の雪解け水を使っている。そこに「広い平野」「育ちやすい気候」が合わさって稲作がともしやすい。また、昔に土地改良や品種改良(寒くても育つ稲)をしたからでもある。

に単元初めに立てた予想と終末での単元の振り返りの記述内容に大きな変化が見られた。

地理的な見方・考え方の視点から中部地方の産業の特徴について捉え直すことができ、「深い学び」につながったと考えられる。

② 思考ツールを用いた「深い学び」

江戸幕府の政策をキーワードに沿って分類、整理させたことで改革の内容や歴史的なできごとを互いに関連付けることができた。また、可視化された思考ツールを活用しながら生徒同士で議論することで、自分とは異なる見方や考えに気付かせることができた。

歴史的な見方・考え方を、思考ツールを活用して働かせることで様々な歴史的な事象を多面的・多角的に捉え直すことができた。また、生徒同士で共有させることで異なる考えや表現の仕方を知ることができ、「深い学び」につながったと考えられる。

<追究学習後の学習課題に対する考え>

(一部抜粋)

- ・生活や政治、経済の基礎が年貢米や物々交換だったのに、貨幣を後先考えずに取り入れてしまった。
- ・幕府に都合の良い政策ばかり行い、百姓や町人の生活などに合っていなかった。
- ・経済が年貢米からお金を多く使うようになったことと、身分の関係が変わったこと。

(2) 課題

① 単元シートについて

・毎時間ごとに学習内容のポイントをシートに記入する時間を設定しているが、記入内容は生徒によって大きく差がある。生徒自身に考えさせ、思考力や表現力を身に付けさせていきたいが、発達段階に応じたシートの形式や教師の働きかけによって記述内容が深まるような工夫が必要である。

② 思考ツールの活用について

・生徒の実態や学習内容に応じて、学習に効果的な思考ツールや思考ツールを活用した際の学習形態を模索していく必要がある。思考ツールを活用したことによって、生徒が学びの深まりを実感できるような工夫が必要である。

<参考文献>

- ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』平成29年
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校社会)』令和2年
- ・工藤文三『平成29年改訂中学校教育課程実践講座 社会』ぎょうせい、2017
- ・大分大学教育学部附属中学校『思考の変容を見るための「振り返り」』